婚姻関係から見るウイグル人の帰属意識
――トルコのウイグル人村に対する調査から――

タシメメティ

本発表は、トルコのウイグル人村の婚姻を通じてそのウイグル人社会の文化的位置を示すことを目的とした。

1960年代、中国の新疆ウイグル自治区から数百世帯のウイグル人が、「親族訪問」の形でアフガニスタンに移動し、4年後にその一部がトルコ共和国に移住してきた（このような経歴は彼ら自身によってヒジュラと呼ばれるとともに、このような経歴をもつ人々はヒジュラのメンバーとされた）。彼らが「原住トルコ人（イェリリクら）」とよぶ対象であるトルコ共和国のトルコ人は、このウイグル人グループを「移民トルコ人（ゴチメンら）」と呼んで、同じトルコ人であることを強調してきた。日本では、「トルコ」・「トルコ人」というとトルコ共和国とトルコ共和国の国民としての「トルコ人」を指すことが多いが、「移民トルコ人」と「原住トルコ人」の共通点として考えられている「トルコ」という概念に関して言えば、トルコ（テュルク）系言語を使用する民族としてのテュルク民族という意味合いも含意していると思われる。このような意味でのトルコ系民族は、歴史上、「突厥」という名称で中国の史書にも姿を現し、その後の西遷を通して、現在は中国の西部からトルコ共和国までのユーラシアの広範囲にわたる空間に、細分化された様々な民族集団として分布している。彼らは、近代におけるトルコ民族主義や汎トルコ主義の高まりも背景として、お互いの間にトルコ系民族としての連携をとっているのである。

トルコに移住してきたウイグル人が居住するT村においては、村民たちの婚姻という側面から、ゴチメンらとイェリリクらとの関係を見ることができる。この婚姻関係を分析することでゴチメンらとイェリリクらのコミュニケーションがどういう形でとられているのかを見ることにする。

ウイグル人との婚姻

T村におけるウイグル人の結婚は、①村内婚姻、②トルコ国内婚姻、③国際婚姻、という三つのカテゴリにわけることができる。①はT村におけるヒジュラのメンバー間の婚姻、

②はT村以外のトルコ国内在住のウイグル人との結婚、③は新疆ウイグル自治区のウイグル人や中央アジアに住むウイグル人との婚姻関係である。結婚は、お見合い結婚と自由恋愛結婚という二つの形態がある。

T村人の村内における婚姻は、基本的にヒジュラのメンバーとの結婚とも言える。T村における婚姻全体のなかで、ヒジュラのメンバー（後に移住してきた世帯も含む）同士の婚姻はおよそ9割を占めている。T村が形成された際、村民たち相互間の主要な関係は隣人関係であった。しかし、43年間を経た調査時点（2008年10月）においては、村人のすべてが婚姻に基づく連携によって親族関係のネットワークに連なっている。T村においては、この親族ネットワークに関わっていないウイグル人家族はいない。

第一世代の中で、再婚した男性は13人、女性が10人いる。男性の中の2人はイェリリクとの婚姻であり、そのほかは村内の婚姻である。

第二世代と第三世代の中で結婚した村民のほとんどは、T村に移住してきてから結婚したものである。2008年10月の時点において、第二世代で結婚した総人口180人のうち、村内婚姻に関わった男性は67人、女性は63人であり、村内婚姻は全体の72%を占める。第三世代においては村内結婚者男性の人数は20人、女性は25人であり、村内結婚は結婚者総人口66人の68%を占める。

村内におけるお見合い結婚は、現在でも大きな割合を占めている。筆者が収集したデータに基づけば、村内結婚は第三世代においても60%以上を占める。

T村人は一方でトルコ国内にいるウイグル人ともお見合い結婚をする。対象者はヒジュラのメンバーより前にトルコに移住してきたウイグル人、T村からイスタンブルなど大都市に移住したヒジュラのメンバー、留学生、政治亡命者などである。

T村の人たちはトルコ以外の地域、特に彼らの故郷であるウイグル地域と婚姻関係を通して結びついている。また、T村の国際結婚関係を分析してみると、故郷のウイグル地域だけでなく、ヒジュラによる移住先との繋がりが見えてくる。

T村と結婚関係を持つ地域は、まさにT村のヒジュラに参加したメンバーたちが最終的に移住した地域である。アフガンに来たヒジュラのメンバーはトルコ（T村）に74世帯、トルコ（T村）経由でドイツに数世帯、サウジアラビア（メッカ、ジッデなど）に80世帯、中央アジア（世帯数が不詳）などに移住した。関わった地域は、出発地域のウイグル地域、滞在地域のアフガニスタン、最終的な行先としてはトルコ、ドイツ、サウジアラビア、中央アジアである。T村の村民たちと婚姻によるつながりを持つ地域は、ドイツ、サウジアラビア、ウイグル地域と中央アジアである。

ここで、ヒジュラのメンバーが滞在したアフガン地域が、なぜ婚姻において関係がないのか、という疑問が生じる。NHKの秦正純が2002年10月にアフガニスタンのウイグル人

を訪ねた際、数十の家族が焼き餃子や陶器を商って生活していたことを紹介したけれども、ヒジュラのメンバーと出会ったのは一人の年配女性だけであった（NHK スペシャル、2003年）。また、筆者は、イスタンブルに留学してきた一人のウイグル人学生から、関連する情報を得ることができた。彼の父はヒジュラのメンバーであり、当時アフガンのカーブルに来た時、英語とロシア語が堪能であるため、タイムズ紙のカーブル支社で仕事を見つけて、しばらくは他の所に移動しなかったという。しかし、子供をトルコに留学させた後、故郷の新疆ウイグル自治区のイリに戻り、現在はそこに居住しているという。この学生の話によると、カーブルには少数のウイグル人がいるものの、皆ばらばらに暮らしているという。以上の内容からみると、アフガニスタンにはヒジュラのメンバーが残っていないため、婚姻関係による結びつきがなかったと考えられる。

なお、T 村においては、自由恋愛結婚は比較的少ない。原因は、若い異性同士が交際するチャンスがほとんどないことである。その背景としては、イスラームの影響が推定される。

イェリリクらとの結婚

T 村人は、村民同士や国外のウイグル人との結婚以外に、トルコ人とも結婚関係を結んでいる。

T 村人のトルコ人との結婚からは、移住民であるウイグル人と原住民であるトルコ人の隣人関係がどのような形で維持されているのかを見てとることができる。T 村人の話によれば、トルコ人との結婚は「ゴチメントルコ人」（ゴチメンら）と「イェリリクトルコ人」（イェリリクら）の間における関係であるとして受け入れられている。トルコ人との結婚は、その形から①お見合い結婚と②自由恋愛結婚という 2 種類からなる。

トルコ人とのお見合い結婚の特徴は、T 村の男性は村から離れた地域のトルコ人女性を結婚相手として選べるのに対して、T 村の女性の方は T 村に移住してきた、あるいは近隣に居住するトルコ人男性を結婚相手として選ぶことができるということである。

自由恋愛結婚は、T 村人がトルコ社会と自然な形で融合している状況を表すものである。このような状況からは、彼らが移住先のトルコに同化されているようにも見受けられる。

第一世代の自由恋愛率が 0 であるのに対して、第二世代では自由恋愛結婚した T 村人は男性 5 人、女性 3 人である。第三世代においては男性 4 人、女性 5 人である。女性の自由恋愛結婚率が高まっている。その理由は、女性の進学や就職など社会活動への参加率が高まっていることである。

ウイグル人は T 村のもう一つの住民であるクルド人と隣人関係にあるが、結婚関係は結んでいない。その理由としてウイグル人村民たちは、クルド人がトルコ人ではない、またクルド人はアラヴィ（正統イスラームではない）である、といった点を指摘する。

T 村のウイグル人居住民の結婚関係から、ウイグル人はトルコ社会と自然に融合する立場をとっていることがわかる。トルコ系民族としての民族性とスンニー派ムスリムであるイスラーム性が、彼らにとってお互いを受け入れる最大の理由であると考えられる。

（中部大学大学院博士課程）